ようこそ！夢の本棚へ

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代　表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

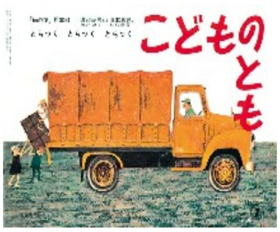
「こどものとも」で育む豊かな心と生きる力②
～物語を生き生きとさせる横長・横書きの絵本～

心を躍らせる言葉

◆私の編集方針の一つに「役に立つ、ためになるだけの本は作らない」というのがあります。科学の本であっても面白く楽しい本を、子どもの心に残る本を作らなければ、知識も情報も残らないんです◆私は『コドモノクニ』という絵本で育ちました。その後、２年保育の幼稚園へ行って『キンダーブック』をもらって、母が読んでくれました。ただ残念なことに、私の心の中には、今全く残っていません◆私は、フレーベル館さんへ行って、初期の『キンダーブック』を全部調べさせてもらったことがあります。１冊１冊、とても見事に作られています。ただし、教材として、観察絵本として作られているんです。知識や情報をちゃんと子どもに教えるというだけでは、子どもの心に残らないんです◆ですから、それと同時に読んでもらっていた北原白秋や西条八十や野口雨情の童謡だとか、小川未明とかそういう人たちの短い話が『コドモノクニ』に毎月載ってたんですけど、それはちゃんと残ってるんです◆特に、北原白秋の日本語っていうのは、意味が分かっていたんじゃありませんけども、本当に気持ちに触れるような日本語でした。私の日本語の基盤は、北原白秋です◆今でももっと子どもたちに、童謡や詩を読んでやった方がいいと思います。たとえば、まどみちおさんの詩を読むとか、谷川俊太郎さんの詩を読むとか、それから北原白秋なんかも、今の子どもに読んでやった方がいいですよ◆子どもの心を躍らせるほどの言葉ってのは、見事なリズムがある。そして、何かそこにたくさん感じるものがある。そういうことが、今の日本語には欠けているんですよ。ですから、ますます日本語が衰えていくと思いますし、そうなると出版界も潰れてしまいますので、何とかしていただきたいと思っております。

横長・横書き絵本の誕生

◆『こどものとも』をどうして横長の判で横書きにしたのか。今は、むしろ横書きの絵本の方が多いかもしれません。これが一番最初に、日本で横長、横書きになった絵本「とらっく とらっく とらっく」です。64号目なんですけど、年の半ばごろで７月号だったんですが、思い切って私は、横長で横書きの本を作りました◆そして、それにぴたっと合うのは、やっぱり乗り物が走るのが一番いいだろうと思ったんですね。トラックが走るんですよ。走るってことは、ドンドンドンって走るんですから、横長の本を作るのにはどんぴしゃりです◆縦に文章を入れるってことは、横長の本の場合はうまく絵と合わないんですよ。ですから、文章も横書きにしたんです。外国の本を取り寄せて見ているうちに、文章と絵がぴたっと合ってる、そして、とってもダイナミックで生き生きと物語が描かれているといったことを感じていたもんですから、横長の本にしました。



渡辺茂男さく/山本忠敬え
６４号/１９６１年７月号
福音館書店刊

各方面からお叱りの声

◆子どもは喜んだんですけども、大人の方から文句が来て、学校の先生から叱られました。「国語の教科書が縦書きなのに、子どもの本を横書きにするとは何事か」と何回も言われたんです◆それから、本屋さんからも「こんなのは困る」と。さらに、図書館の方からは、「こんな本箱に入らない本をどうして作るんですか」って。私は、その時すぐ「本があって本箱を作るんでしょ。本箱があって本を作るんじゃないでしょ」と思ったんです◆表現の方法で縦書きを否定してるんじゃありません。横書きというのが、ほんとに物語を生き生きとさせるんです（つづく）